

H28農事メモ (秋作業特集号)

平成28年10月
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

来年の収量・品質確保のため、秋作業の徹底を！

1 土づくりによる安定した米づくり

(1) 土づくりの効果

- ① 稲わらや籾がらのすき込み → 土中有機物が増え地力が向上します！
 - ・ 分解を促進させるため、収穫後の気温が高いうちに速やかに耕起しましょう。
 - ・ 稲わらや籾がらに含まれる窒素分やけい酸は焼却すると稲体に利用されにくくなるので、焼かずに全量すき込みしましょう。
- ② 土づくり肥料の施用 → 不足する養分を補給し、稲体強化や根の活力を向上します！
 - ・ 本JA管内はけい酸含量が少ない圃場が多く、灌がい水に含まれるけい酸含量も少ないため、珪酸質資材の施用は必要不可欠です。
- ③ 作土深15cm以上を確保 → 根域が拡がり天候の影響を受けにくく、生育が安定します！
 - ・ トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くしましょう。
 - ・ 作土深が十分に確保できているか確認しながら、耕起を行いましょ。

(2) JA松任「土づくりゾーン別サイクルプラン」の活用

管内で不足しがちなケイ酸やリン酸の補充の他、地力の向上に3年サイクルで取り組んでいます。

年度	旭・御手洗・出城・郷	山島・林中・一木	柏野・宮保・笠間・石川
28年度	ソイルパワー(2000kg) もしくは 松任ケイサンプラス(60kg)	松任PKプラス(60kg)	松任ケイサンプラス(60kg)
29年度	松任ケイサンプラス(60kg)	ソイルパワー(2000kg) もしくは 松任ケイサンプラス(60kg)	松任PKプラス(60kg)
30年度	松任PKプラス(60kg)	松任ケイサンプラス(60kg)	ソイルパワー(2000kg) もしくは 松任ケイサンプラス(60kg)

※ () は10a当たりの施用量の目安

※松任・中奥地区は、松任PKプラスもしくは松任ケイサンプラスとなります。

※堆肥や土づくり肥料の散布後は、速やかに耕起するとともに、ほ場内に水が溜まらないようにしましょう。

土づくりの効果は、数年継続することにより実感できます。毎年実施しましょう！

2 漏生イネの発生防止

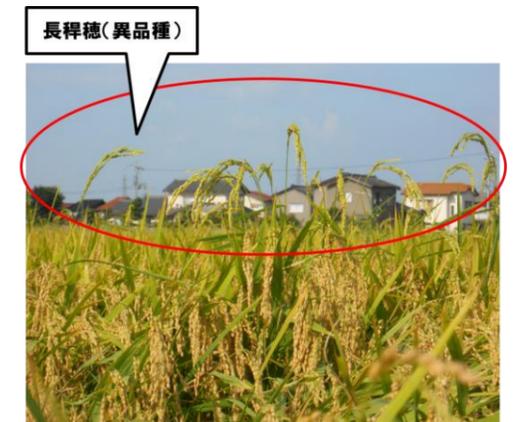
29年産米で異品種混入を防ぐため、品種変更が見込まれる場合は、必ず発生防止に努める！

(1) 今秋の作業

- ・ 2番穂が稔実する前に、収穫後できるだけ早い時期に秋耕しましょう。
- ・ 早期に耕起ができない場合は、稲刈り後の耕起前に、
 - ① 「プリグロックスL」を散布しましょう。
(プリグロックスLは、種子の発芽抑制と茎葉の枯殺どちらにも効果があります)。
 - ② または、「石灰窒素 50kg/10a」を散布し、その後ほ場を乾かして3週間程度は耕起せずに種子の発芽を促し、その後で耕起しましょう。(次年度の水稲施肥窒素量を1kg/10a減肥)

(2) 来春の作業

- ・ なるべく本年と同品種を作付けしましょう。
- ・ 代かきは7日以上の間隔をあけて2回行い、田植えは代かき後7日以内にしましょう。
- ・ 田植直後に初期除草剤ソルネット1キロ粒剤を散布しましょう。
- ・ 活着期以降、条間や株間に生える漏生イネを抜き取りましょう。

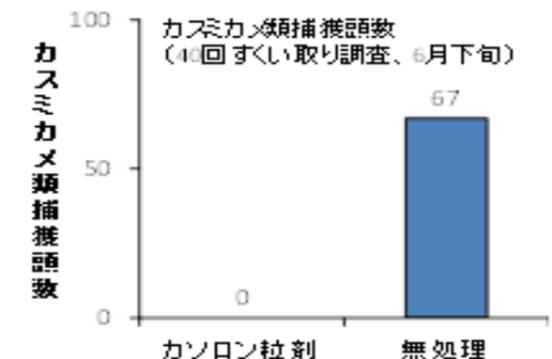


3 春季畦畔除草作業の軽減 (カメムシ発生地の早期管理)

農閑期の「カソロン粒剤6.7」散布で、忙しい春先の畦畔の除草作業を減らす事ができます。

薬剤名	使用時期	使用量 10a 当たり	本剤の 使用回数	使用方法
カソロン粒剤6.7	11月下旬から年内積雪前	4~6kg	1回	全面土壌散布

※そ菜(かぼちゃ、うり類等)、花き(菊等)ほ場・その栽培予定地に隣接する場所では使用しない。



※越冬直後の飛翔性カメムシ類の繁殖場所が無くなるので、その後の発生量を大幅に減らすことができます。

「一人一人の安全意識の向上で事故防止」 2016全国農作業安全確認運動

※農作業事故の大半はトラクターの転落・転倒、回転部への巻き込まれです。トラクターを使用する秋作業に注意しましょう。